

平成23年度 各会計決算など 18議案を議決

平成23年度各会計歳入歳出決算などを審議する町議会9月定例会が開会され、提出された18議案すべてが原案のとおり議決されました。ここでは、議会に提出された議案の内容をお知らせします。

一般会計含む 11会計決算を認定

第5回町議会定例会が9月4日(火)から14日(金)までの11日間の日程で開会されました。今回の9月定例会では前年度各会計の決算が審議さ

れ、すべての会計が認定されました。決算の内容は、広報かがみいし11月号で一般会計を中心にお知らせします。

今回の議会にはその他、鏡石町復興産業集積区域における固定資産税の課税免除に関する条例、鏡石町介護保険財政安定化基金特例交付金基金条例、鏡石町国民健康保険条例の一部改正などの議案が議決されました。

**一般会計補正予算総額は
4億8,803万円**

一般会計や8つの特別会計

平成23年度各会計決算状況

単位：千円

会計区分	歳入	歳出	
一般会計	7,038,507	6,464,593	
国民健康保険特別会計	1,526,514	1,401,967	
後期高齢者医療特別会計	76,099	75,876	
介護保険特別会計	731,254	697,541	
土地取得事業特別会計	3,715	3,715	
工業団地事業特別会計	165,872	163,547	
鏡石駅東第1土地 区画整理事業特別会計	84,761	83,796	
育英資金貸付費特別会計	13,555	12,207	
公共下水道事業特別会計	799,586	792,815	
農業集落排水事業特別会計	75,899	74,996	
小計	10,515,762	9,771,053	
上水道 事業会計	収 益 的	290,135	233,897
	資 本 的	55,108	172,212
	計	345,243	406,109
合 計	10,861,005	10,177,162	

の補正予算が議決され、一般会計は4億8,803万円増額されました。これにより、一般会計予算の合計は8億3,354万円となりました。

域生活支援、障がい者自立支援給付費5,010万円や仮置き場設置工事費5,705万円などです。

教育委員に塩田委員を選任

教育委員会委員として、吉田栄新委員が任期満了により退任されることにより、塩田重男さん(大池)が新たに選任され、常松ゆかりさん(岡ノ内)が再任されました。常松さん、塩田さんの任期は、平成24年10月1日から4年間です。また、監査委員の根本次男さん(中町)の任期が満了となることから、議会へ再任の同意を求め、同意されました。根本さんの任期は、平成24年10月1日から4年間です。

る50年に向けて、震災を乗り越え、歩み出たところであり、10月17日には鳥見山体育館において、記念式典を挙げることにしております。

町内はもちろん、近隣市町村や県内、さらには県外からの観光者も多く大変盛況となりました。

震災復興のシンボルとも言える「第一小学校改築事業」が具体的に動き出し、6月から旧校舎の取り壊しが本格的に進められ、夏休み中に校舎上屋の取り壊しがほぼ終了、現在は破砕材の分別処分のほか、土間コンクリートと基礎解体工事を行っているところであり、順調に進捗しております。



町長説明要旨

東日本大震災の発生から間もなく1年6か月が経過しようとしておりますが、住宅なども少しずつ修理や建て替えなども進んできており、町としても復興・復興に全力で取り組み、町民のみならずともに元気を生み出していくような町づくりを行っていき考えであります。

昭和37年8月1日の町制施行から本年8月1日をもって本町は、50周年を迎えました。半世紀の区切りの年を迎え、さらな

る50年に向けて、震災を乗り越え、歩み出たところであり、10月17日には鳥見山体育館において、記念式典を挙げることにしております。

町内はもちろん、近隣市町村や県内、さらには県外からの観光者も多く大変盛況となりました。

第14回 少年の主張 鏡石町大会

今月号では9月号に引き続き、8月6日(土)、町図書館で開催された、第14回少年の主張町大会で最優秀賞を受賞した作品をご紹介します。



▲中学生の部最優秀賞を受賞した矢吹花野さん

コトバが届けてくれたこと

鏡石中一年 矢吹花野

あなたは、誰かの言葉に勇気をもたらしたことがありますか。
震災が起きたとき、私達はたくさんの言葉に助けられたと思います。テレビCMや、新聞、インターネットなど、さまざまなところから、私達に言葉が届けられました。言葉はときにメッセージであったり、詩であったりします。
私は、詩が好きでよく詩をかいています。詩は、たくさんの言葉が集まって出来ていて、素直な思い

を色々な言葉で表現できるのが良いと思います。地震が起きたとき、私はとても不安でした。学校はどうなるのだろう。友達とはいつ会えるのだろう。食べ物や生活用品はどうすればいいのだろう。そんな不安の毎日の中で、私はある一つの詩に出会いました。それは、「ハチドリのひとつずつ」という詩です。
森が燃えていました
森の生き物たちは われ先にと
逃げていきました
でも クリキンデイという名のハチドリだけは
いたりきたり
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んで
火の上に落としていきます
動物たちがそれを見て
「そんなことをしていったい何になるんだ」
といて笑います
クリキンデイは 「こう答えました」
「私は私にできることをしているだけ」
この詩の中で、特に最後の「私は私にできることをしているだけ」という言葉に、すこくはげまされた。あの頃のわたしには想像もできなかった言葉です。この言葉を知ってから、私は私にできることを探しました。それは、自分の詩で誰かをほげますことです。家族でも友達でもいい、私がああ言葉にはげまされたのだから。そう思いました。
月日がたち、久々の小学校で担任の先生が私の詩を、教室の外にはってくれたり、手紙に出してくれたりしました。そのとき私は、

「これで誰かをほげますことができます。」嬉しくなりました。実際、それを見た友達が、私に「すごいね。」などと言ってくると、とても嬉しかったです。
中学生になり、地震から月日が一年以上たった今でも、不安は絶えず、時々おどろける余震は、心を恐怖にしています。明日には、全てが以前のように戻っているのではないか、そう考えたときもありました。そんなとき私は、自分で作ったこの詩を思い出しています。
人は一人じゃ生きられない
たくさんの人がいるからこそ
わたしはわたしでいられる
苦しいとき
悲しいとき
つらいとき
となりに手を伸ばしてごらん
きくと
あなたを想っている人がいる
一人じゃないよ
みんながいる
この詩を思い出すことで、私は前向きになれます。私はこれからも、たくさんの詩をたくさんの人に届けたいです。それは、詩を書き誰かをほげますことが、「私にできること」だから。コトバが届ける勇気とともに。